

# 描画の発達とメディア接触

子安増生・郷式 徹

## はじめに

描画は、乳児期からはじまり、幼児期にいたる、ことばの発達途上にある子どもたちの表現の媒体として、きわめて重要な意味を持つものであると同時に、身の回りの素材によって誰でもおこなうことができる簡便な発達検査法でもある (Cox, 1992)。これまで、フォローアップ調査は、質問紙法調査による両親の回答のみに頼っていたが、今回初めて子ども自身の作品を分析することができるようになった。すなわち、2歳児の描画の発達に関するさまざまな指標に関して検討を行うため、子ども自身に油性のペンで画用紙に自由に絵を描いてもらい、描き終わった後に何を描いたのか保護者にたずねてもらった。また、描画に関して、保護者にいくつかの項目に回答してもらった。今回検討の対象とした指標は、①描画の開始時期、②一日の描画時間、③子どもの描画に対する保護者への質問（表象的描画度、母子コミュニケーション度、学習体験度に整理される）、④子どもの自身の絵に対する命名、⑤子どもの絵の内容、であった。また、これらの指標とメディア接触との関連を中心に検討を行った。

## 課題（調査票）

### お子さんの絵について

調査対象となっておられるお子さんがえがく「絵」のことについてお尋ねします。ここでいう「絵」とは、紙などの上に筆記具で書いて筆記具で書いてのこる線のことを言います。それが何に見えるかとか、うまいかへたかは問いません。

1. お子さんが最初に「絵」をえがきはじめたのがおよそいつごろからかわかりますか？あてはまるものの番号に1つ○をつけてください。必要に応じて（ ）にご記入ください。
  - 1 わかる ⇒ （ ）歳 （ ）か月ごろから
  - 2 絵はかいているが、いつごろからかはおぼえていない
  - 3 まだ絵をかいていない
2. お子さんは現在1日に「絵」を何時間くらいかいておられますか。0、1、2などの数字で（ ）内にご記入ください。  
（ ）時間（ ）分くらい

3. 絵に関することで、以下のうちお子さんにあてはまるものの番号にすべて○をつけてください。

- 1 まだ何をかいているのか、よくわからない
- 2 何をかいたのか聞いたら、おしえてくれることがある
- 3 人間の絵をかくことがある
- 4 テレビや絵本のキャラクターの絵をかくことがある
- 5 家やじどうしゃの絵をかくことがある
- 6 つくえ、たたみ、ふすま、冷蔵庫など、どこにでもかこうとする
- 7 保育所などで絵を習いはじめている
- 8 おけいごととして、絵を習わせている
- 9 親といっしょに絵をかくことがある
- 10 親に何かかいてほしいということがある

4. お子さんに、この用紙のうらに絵をかいていただいでよいでしょうか。筆記具は同封のペンをお使いください。何でも好きなものをかいていただいでけっこうです。「わく」がありますが、はみだしてもいっこうにかまいません。自由にかきたいだけ、かかせてあげてください。かきあがった後「これは何？」と聞き、返事があったら、そのことばを紙の下( )内にご記入ください。なお、絵をかくのをいやがるようでしたら、けっして無理にかかせていただかなくてけっこうです。ただし、この用紙はご返却ください。

【調査票（裏面）】

上
これは何？ ( )

## 対象者

回答が得られたのは1103組の親子であった。うち、男児577人、女児522人、不明（回答なし4人）であった。なお、結果の記述では、質問表の質問項目の記載漏れ等により人数は1103人よりも少なくなる。

## 結果

### 子どもが絵を描き始めた時期

子どもが描きはじめた時期の認識について、「描き始めた時期がわかる（2）」、「絵は描いているが、開始時期はわからない（1）」、「まだ絵を描いていない（0）」のいずれかで回答を求め、時期がわかる場合には描き始めた時期を「～か月」で示してもらった。子どもが絵を描き始めた時期の認識について、保育施設を利用している場合としていない場合に分けて表1に示した。保育施設の利用の有無によって、認識はじめた時期の認識が異なるといったことはなかった（Fisherの直接法により $p = .30$ ）。

表1 保育施設利用の有無別の描画の開始に対する認識（人）

	保育施設利用	
	有り	なし
絵を描き始めた時期がわかる	114	344
絵は描いているが、開始時期はわからない	121	457
まだ絵を描いていない	5	16

また、子どもが絵を描き始めた時期が「わかる」という回答に関して、記入された描画開始時期（月齢）の平均を表2に示した。描画の開始月齢に性差、保育施設の利用の有無の違いはみられなかった（性別の主効果 $F(1, 454) < 1$ , n.s.、保育施設の利用の主効果 $F(1, 454) < 1$ , n.s.）。また、交互作用もみられなかった（ $F(1, 454) < 1$ , n.s.）。

表2 保育施設利用の有無別、男女別の描画開始時期

		保育施設利用	
		有り	なし
男児	平均開始月齢	19.67	19.73
	(SD)	(6.18)	(6.51)
	人数	n=55	n=169
女児	平均開始月齢	18.90	19.90
	(SD)	(6.24)	(6.20)
	人数	n=114	n=175

開始月齢とお絵描きに関する質問項目（「あてはまる」から「あてはまらない」までの5件法）との関係では、「○○ちゃんはお絵描きをするのが好きだ」という質問で非常に弱いものの負の相関（ $r = -.094$ ,  $n = 457$ ）が見られた（無相関の検定において5%水準で有意であった）。すなわち、早く絵を描き始めた子どもほど絵を描くことが好きだといえよう。しかし、「○○ちゃんは

よくお絵描きをする」という質問では相関は見られなかった（無相関の検定において有意ではなかった）。また、「○○ちゃんはよく外で遊ぶ（ $r = -.111$ ,  $n = 458$ ）」「○○ちゃんは体を動かすことが好きだ（ $r = -.119$ ,  $n = 459$ ）」という質問で、それぞれ非常に弱いものの負の相関が見られた（無相関の検定において5%水準で有意であった）。すなわち、外で遊んだり、体を動かしたりすることが好きな子どもほど、早く絵を描き始めているという傾向が見られる。さらに、開始月齢と1週間の日記票による各種のメディア接触時間\*<sup>1</sup>の関連は、「ビデオ接触単独」においてのみ非常に弱いものの相関（ $r = .101$ ,  $n = 443$ ）が見られた（無相関の検定において5%水準で有意であった）。すなわち、ビデオ接触時間の少ない子どもほど早く絵を描き始めているという傾向が見られる。また、開始月齢と1週間の日記票による「絵本（本）読み」の時間との間にも、非常に弱いものの負の相関（ $r = -.101$ ,  $n = 418$ ）が見られた（無相関の検定において5%水準で有意であった）。すなわち、絵本読み時間の多い子どもほど早く絵を描き始めているという傾向が見られる。

### 一日の描画時間

一日にどのくらいの時間「絵」を描いているかについて、保育施設を利用している場合としない場合に分けて、表3に示した。保育施設の利用の有無によって、描画時間が異なるということとはなかった（ $F(1, 1033) = 1.21$ , n.s.）。

表3 保育施設利用の有無別の描画時間

	保育施設利用	
	有り	なし
平均描画時間	22.95	25.17
(SD)	(19.27)	(28.95)
人数	n=233	n=802

一日の描画時間とお絵描きに関する質問項目（「あてはまる」から「あてはまらない」までの5件法）との関係では、「○○ちゃんはお絵描きをするのが好きだ」「○○ちゃんはよくお絵描きをする」という質問では相関は見られなかった。一方、「○○ちゃんはよく外で遊ぶ（ $r = .319$ ,  $n = 1040$ ）」「○○ちゃんは体を動かすことが好きだ（ $r = .359$ ,  $n = 1042$ ）」という質問で、それぞれ弱い相関が見られた（無相関の検定において5%水準で有意であった）。すなわち、外で遊んだり、体を動かしたりすることが好きな子ほど描画時間が長いという傾向が見られる。

さらに、1日の描画時間と1週間の日記票による各種のメディア接触時間\*<sup>2</sup>の関連は見られなかった。しかし、描画時間と1週間の日記票による「屋内遊び」の時間との間に非常に弱いも

\* 1 対象とした各種のメディア接触時間の指標は次の通り。テレビ接触時間、テレビ接触単独、テレビ接触共有、テレビ接触同伴、テレビ接触専念、テレビ接触ながら、テレビ接触画のみ、テレビ接触視聴、ビデオ接触時間、ビデオ接触単独、ビデオ接触共有、ビデオ接触同伴、ビデオ接触専念、ビデオ接触ながら、ビデオ接触画のみ、ビデオ接触視聴、ゲーム接触時間、テレビビデオ接触、映像接触時間。

\* 2 \* 1に同じ。

の負の相関 ( $r=.064$ ,  $n=959$ ) が見られた (無相関の検定において 5%水準で有意であった)。すなわち、屋内遊びの長い子ほど描画時間が短いという傾向が見られる。また、「絵本 (本) 読み」の時間との間にも、弱い相関 ( $r=.310$ ,  $n=951$ ) が見られた (無相関の検定において 5%水準で有意であった)。すなわち、絵本読み時間の多い子どもほど描画時間が長いという傾向が見られる。

### 描画に関する質問項目の分析

保護者への「絵に関することで、以下のうちお子さんにあてはまるものの番号にすべて○をつけてください。」という質問 (10問) に関して、3、4、5を「表象的描画」、2、9、10を「母子コミュニケーション度」、7を「学習体験度」とする3つの領域に分類した (表4)。なお、「8 おけいこごととして、絵を習わせている」は回答者が3名のみだったため、分析対象から除外した。

表4 描画に関する質問項目の分類

分類カテゴリ名	項目番号	内容
表象的描画度	3	人間の絵をかくことがある
	4	テレビや絵本のキャラクターの絵をかくことがある
	5	家やじどうしゃの絵をかくことがある
母子コミュニケーション度	2	何をかいたのか聞いたら、おしえてくれることがある
	9	親といっしょに絵をかくことがある
	10	親に何かかいてほしいということがある
学習体験度	7	保育所などで絵を習い始めている

「母子コミュニケーション度」、「表象的描画」、「学習体験度」と描画に関するものおよび各種のメディア接触時間の関連に関する他の指標との相関を表5に示した (3つの分類カテゴリーのいずれかと相関のあったもののみ\*3)。

また、「母子コミュニケーション度」とPBIの指標の一つ「母親の抑うつ」との間に非常に弱いものの負の相関 ( $r=-.061$ ,  $n=1031$ ) が見られた (無相関の検定において 5%水準で有意であった)。すなわち、「母子コミュニケーション度」が高いほど、「母親の抑うつ」は低いという傾向が見られる。

### 絵の命名

子どもが自分の描いた絵についてどのように命名したかを尋ねた。命名の有無に関して、保育施設を利用している場合としない場合に分けて、表6に示した。保育施設の利用の有無による違いは見られなかった (Fisherの直接法により  $p=.36$ )。

表6 保育施設利用の有無別の命名の有無 (人)

	保育施設利用	
	有り	なし
命名有り	214	746
命名なし	31	88

\*3 ビデオ接触共有、ビデオ接触同伴、ビデオ接触専念、ビデオ接触画のみ、ゲーム接触時間、屋内遊びと「母子コミュニケーション度」、「表象的描画」、「学習体験度」の間にはいずれも相関が見られなかった。

表5 「母子コミュニケーション度」、「表象的描画」、「学習体験度」と他の指標との相関

	母子コミュニケーション度	表象的描画	学習体験度
描画開始月齢	<b>-0.16</b>	-0.07	<b>-0.09</b>
描画時間	<b>0.16</b>	<b>0.27</b>	0.03
母子コミュニケーション度	-	<b>0.27</b>	<b>0.06</b>
表象的描画	<b>0.27</b>	-	0.06
学習体験度	<b>0.06</b>	0.06	-
お絵かきに関する質問項目			
「○○ちゃんはお絵かきをするのが好きだ」	0.05	0.00	<b>0.15</b>
「○○ちゃんはよくお絵かきをする」	0.03	<b>0.09</b>	0.05
「○○ちゃんはよく外で遊ぶ」	<b>0.19</b>	<b>0.27</b>	<b>0.07</b>
「○○ちゃんは体を動かすことが好きだ」	<b>0.19</b>	<b>0.28</b>	0.06
日記票 (1週間)			
テレビ接触量	-0.01	0.00	<b>-0.11</b>
テレビ接触単独	<b>-0.11</b>	<b>-0.08</b>	<b>-0.10</b>
テレビ接触共有	0.05	0.05	<b>-0.07</b>
テレビ接触同伴	0.05	0.04	<b>-0.08</b>
テレビ接触専念	0.03	0.01	<b>-0.09</b>
テレビ接触ながら	-0.01	0.00	<b>-0.08</b>
テレビ接触画のみ	-0.02	0.00	<b>-0.07</b>
テレビ接触視聴	0.01	0.00	<b>-0.11</b>
ビデオ接触量	-0.05	-0.05	<b>-0.06</b>
ビデオ接触単独	<b>-0.09</b>	<b>-0.09</b>	-0.06
ビデオ接触ながら	<b>-0.08</b>	<b>-0.08</b>	-0.05
ビデオ接触視聴	-0.05	-0.05	<b>-0.06</b>
テレビビデオ接触	-0.03	-0.02	<b>-0.13</b>
映像接触量	-0.03	-0.02	<b>-0.13</b>
屋外遊び時間	<b>0.07</b>	0.06	-0.04
絵本(本)読み時間	<b>0.14</b>	<b>0.10</b>	0.05

ゴシックの数字は無相関の検定の結果、5%水準で有意だったもの

### 描いた絵の分類

子どもが描いた絵について、以下の5段階で評定した。

- 1 未分化ななぐりがき1
  - ・肘の動きだけで描かれたと思われるもの
  - 例：点々だけ、たどたどしい不規則な線、手の往復運動のあと
- 2 未分化ななぐりがき2
  - ・手首の動きも加わって描かれたもの
  - 例：ぐるぐるがき
- 3 円形等のなぐりがき
  - ・線分、円、閉じた図形
- 4 擬似表象画
  - ・対応関係は明確でないが、絵に名前がつけられている
  - ・線の包含関係 (図の中に図)
- 5 表象画
  - ・絵にそれとわかる名前がつく
  - ・何かを意図してかいている
  - ・図の中の図に要素のヴァラエティ



評定は2名の研究者が行い、判断が分かれたとき（一致率58.66%）には協議の上調整した。描画内容による分類を、保育施設を利用している場合としていない場合に分けて、表7に示した。保育施設の利用の有無によって、描画内容が異なった（Fisherの直接法により $p < .01$ ）。残差分析の結果、保育施設利用有り群では未分化ななぐりがき2（円錯画様のもの）が多いが、表象は少ない傾向があり、保育施設利用なし群では未分化ななぐりがき2（円錯画様のもの）が少ないが、表象は多い傾向が見られた。

表7 保育施設利用の有無別の描画内容の人数分布（人）

内容	保育施設利用	
	有り	なし
未分化ななぐりがき1	11 (1.8)	20 (-1.8)
未分化ななぐりがき2	121 (2.5 <sup>*</sup> )	343 (-2.5 <sup>*</sup> )
分化した図形	55 (-1.6)	233 (1.6)
擬似表象画	30 (-0.8)	120 (0.8)
表象画	17 (-1.9 <sup>+</sup> )	93 (1.9 <sup>+</sup> )

未分化ななぐりがき1と2では、1のほうがより未分化である（ ）内の数値は調整済み残差

保育施設を利用している場合としていない場合に分けて、描画に関するものおよび各種のメディア接触時間の関連に関する他の指標との相関を表8に示した（お絵描きに関する質問項目以外は、保育施設の利用の有無のいずれかで相関のあったもののみ<sup>\*4</sup>）。

## 考察

### 保育施設の利用の有無と描画の関連

保育所等の保育施設を利用している子どもと家庭で養育されている子どもとでは、描画活動を行う機会などに違いがあるかもしれないと考えたが、描画の開始時期、一日の描画時間、絵の命名の有無には違いは見られなかった。しかし、描画内容の評定については、保育施設を利用している子どもたちでは未分化ななぐり描きが多いが、家庭で養育されている子どもでは少なかった。また、表8で示されたように、描画開始月齢、母子コミュニケーション度、お絵描きに関する質問項目のうち「○○ちゃんをよくお絵描きをする」に関して、家庭で養育されている子どもは描画内容の評定と弱い正の相関が見られたが、保育施設を利用している子どもでは見られなかった。逆に学習体験度に関しては、保育施設を利用している子どもたちは描画内容の評定と弱い正の相関が見られたが、家庭で養育されている子どもでは見られなかった。こうした違いは、保育施設を利用している子どもでは、施設で行っている描画活動に基づいて回答が行われているのに対し、家庭で養育されている子どもでは、保護者とともに描画活動を行っていることを示唆しているのかもしれない。

\*4 対象とした各種のメディア接触時間の指標は注1に同じ

表8 描画内容と他の指標との相関

	保育施設利用	
	有り	なし
月齢	0.23	0.21
描画開始月齢	0.07	0.11
描画時間	0.20	0.21
母子コミュニケーション度	0.07	0.10
表象的描画	0.34	0.29
学習体験度	0.21	-0.10
お絵かきに関する質問項目		
お絵かきに関する質問項目	-0.07	0.01
「○○ちゃんはお絵かきをするのが好きだ」	0.01	0.07
「○○ちゃんはよくお絵かきをする」	0.26	0.21
「○○ちゃんはよく外で遊ぶ」	0.27	0.22
「○○ちゃんは体を動かすことが好きだ」		
日記票（1週間）		
ビデオ接触量	-0.13	-0.12
ビデオ接触共有	-0.16	-0.13
ビデオ接触保伴	-0.15	-0.14
ビデオ接触専念	-0.20	-0.01
ビデオ接触ながら	-0.05	-0.15
ビデオ接触視聴	-0.16	-0.12

ゴチックの数値は無相関の検定の結果、5%水準で有意だったもの

### 描画の開始時期や描画時間と遊びの種類の関連

一般の予想に反し、外で遊んだり、体を動かしたりすることが好きな子どもほど、早く絵を描き始めており、描画時間が長いという傾向が見られた。また、屋内遊びの長い子ほど描画時間が短いという傾向が見られる一方、絵本読み時間の多い子どもほど描画時間が長いという傾向が見られる。描画は屋内での静かで個人的な遊びというイメージが強いが、2歳児の場合は母子間のコミュニケーション遊びの様相が強いのかもしれない。というのは、表5に示されたように、母子コミュニケーション度と描画開始時期や描画時間に関連が見られるとともに、お絵描きに関する質問項目「○○ちゃんはよく外で遊ぶ」「○○ちゃんは体を動かすことが好きだ」や屋外遊び時間、絵本読み時間に関連が見られた。2歳児の場合、描画を含めこれらの活動はすべて、子ども単独で行われるわけではなく、保護者（多くは母親）が同伴する必要がある。したがって、保護者が子どもと一っしょに活動する—そうした活動には描画も含まれるだろう—ことが多いほど、描画活動が促進されるものと思われる。すなわち、2歳時点での描画活動は子どもの個人的な表象活動というよりは、保護者と協働して行う遊びの一環である可能性が考えられる。

### 描画とメディア接触

保護者が子どもと一っしょに活動する度合いを示しているであろう母子コミュニケーション度が描画活動を促進するのとは逆に、表8に示されたようにメディア接触、特に単独での専念視聴は描画活動を促進しないようである。メディア接触は、たとえそれが保護者とともに行われたものであったとしても、内容について会話する、見ながら一っしょに何かをするなどのコミュニケ



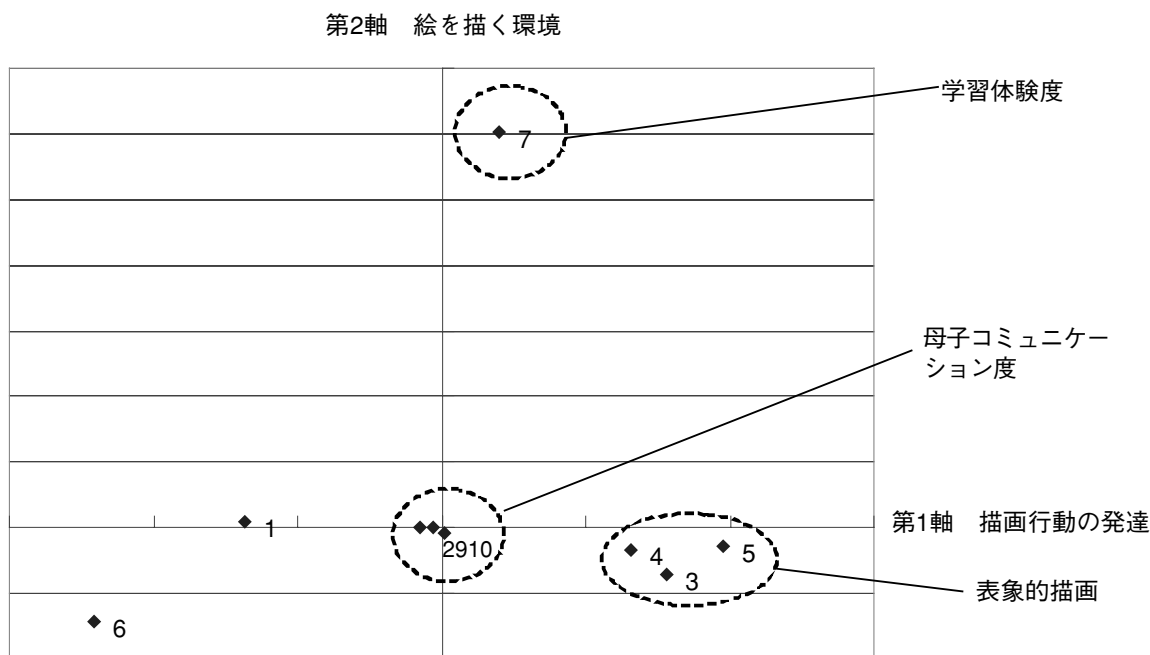
ーションを伴わない限り協働活動とはならない。そのため、全体としては、メディア接触の長さは、保護者と子どもの協働活動としての描画活動を減じていると思われる。(しかし、乳幼児向けの番組を媒介に保護者が子どもといっしょに活動する—いっしょに体操をしたり、踊ったりする—と言った場合、描画活動に促進的な影響をおよぼすかもしれない。) 今回の調査結果は、2歳時点においても、子どもへの個人的な刺激としてのメディア接触の傾向が強く、保護者との協働行為としての側面が弱いことを示しているともいえよう。

## 文献

Cox, M.V., 1992 Children's drawings. Penguin Books. (コックス著・子安増生訳 1999 『子どもの絵と心の発達』。有斐閣.)

付表1 数量化Ⅲ類による各質問への反応の分析結果

	固有値	寄与率	累積寄与率	相関係数
第1軸		23.67%	23.67%	0.49
第2軸		17.49%	41.17%	0.42



付図1 各質問項目のカテゴリースコアの布置

1. まだ何をかいているのか、よくわからない
6. つくえ、たたみ、ふすま、冷蔵庫など、どこにでもかこうとする

i 各質問項目において○のついている場合とついていない場合を変数として、数量化Ⅲ類を用いた2軸(付表1)による解釈をおこなったところ、第1軸は描画行動の発達を示しており、第2軸は絵を描く環境(家庭か施設か)を示していると思われる。なお、この2軸による各質問項目のカテゴリースコアの布置(付図1)を見たところ、2、9、10を「母子コミュニケーション度」、3、4、5を「表象的描画」、7を「学習体験度」とした分類とほぼ一致するものであった。